



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学総合博物館ミュージアムマイスター：認定コースのご案内
Author(s)	北海道大学総合博物館ミュージアムマイスター事務局
Citation	2020年度
Issue Date	2020
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/82521
Type	book
File Information	MuseumMeister_2020_web.pdf



GUIDEBOOK



MUSEUM MEISTER
— HOKKAIDO UNIVERSITY —

www.museum.hokudai.ac.jp

The Hokkaido University Museum

MUSEUM MEISTER

北海道大学総合博物館

ミュージアムマイスター

認定コースのご案内

2020年度

INDEX

- 01 多様に専門化された時代にこそ
求められるミュージアムマイスター
- 02 ミュージアムマイスター
認定コースの概要
- 03 開講科目一覧
- 04 開講科目の紹介
- 06 特集
「マイスターに聞いてみよう！」
- 08 登録申し込みについて

多様に専門化された時代にこそ 求められるミュージアムマイスター

皆さんは、北海道大学の学生として、専門分野について深く学ぶことを目指し、旺盛な好奇心を持ち、努力を積み重ねながら日々を送っていると思います。総合大学である本学では、様々な分野の先端的な研究・教育が行われており、次世代を担うみなさんの期待にこたえる専門教育の場ができています。

一方で、北海道大学が、建学以来掲げてきた理念のひとつに「全人教育」があります。総合博物館は、学科や学部の垣根を超えて、広い分野を学ぶことができる本学の恵まれた環境を最大限に活用した「全人教育」を実践したいと考えました。「博物館を舞台とした体験型教育」プログラムを設定し、広い分野の知識を講義や実習で習得するだけではなく、博物館が主催する課外演習や活動を通じて実践的に学ぶコースとしてつくられたのが、「ミュージアムマイスター」認定コースです。

本コースでは、一定水準をクリアした学生を「ミュージアムマイスター」として認定します。しかし、平成21年度から始まったこのプログラムで、誕生したマイスターはまだ39名です。これは、この称号がいかに選りすぐられた人材に与えられるものであるかを示しています。本コースで我々が重視するのは、単に知識だけではなく、現代社会において必要とされる「社会貢献のための高い見識と情熱」、「人間社会の持続的発展のために貢献できる知恵」を持つ人材の育成なのです。これは、まさに、北海道大学が目指す「全人教育」の完成形であるといえるでしょう。皆さんもマイスターを目指して、より充実した学生生活を過ごしてみませんか。

2020年4月



北海道大学総合博物館長
小澤 丈夫



ミュージアムマイスター 認定コースの概要

「ミュージアムマイスター認定コース」とは、課題探究能力、協調性と自主性を備え、問題解決能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力を持ち、自己評価の視点を身に付けた北大生を認定する教育システムです。シラバスの中から、北大総合博物館が認定した科目を履修し、さらに、博物館が主催するプロジェクトや講座に参加して、必要なクレジット数を取得し、一定基準の成績を修め、プレゼンテーションを含む面談をクリアした学生を、北大総合博物館長が「ミュージアムマイスター」として認定します。

● 受講方法

下記の通り科目種別（A～D）の手続きに従って、受講申請を行ってください。大学院生が学芸員養成課程関連科目以外のABの科目を聴講希望する場合は、まず、ミュージアムマイスター事務局にお問い合わせください。

A 全学教育科目 （総合科目、一般教育演習、主題別科目）

高等教育推進機構・教務課に、指定の期日までに履修届を提出してください。

B 学部専門科目

他学部学生が履修する場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する旨をご連絡ください。（履修は所定の申請を行えば認められますが、卒業認定に関わるかは学部によって異なります。マイスターコースのクレジットは取得することができます。）

C 大学院専門科目・大学院共通授業科目

学部学生も3年生以上は履修可能です。その場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する希望を伝え、了承を得て、ミュージアムマイスター事務局にご連絡ください。（マイスターコースのクレジットは取得できますが、学部学生は単位を取得できないため、履修届を提出する必要はありません。）

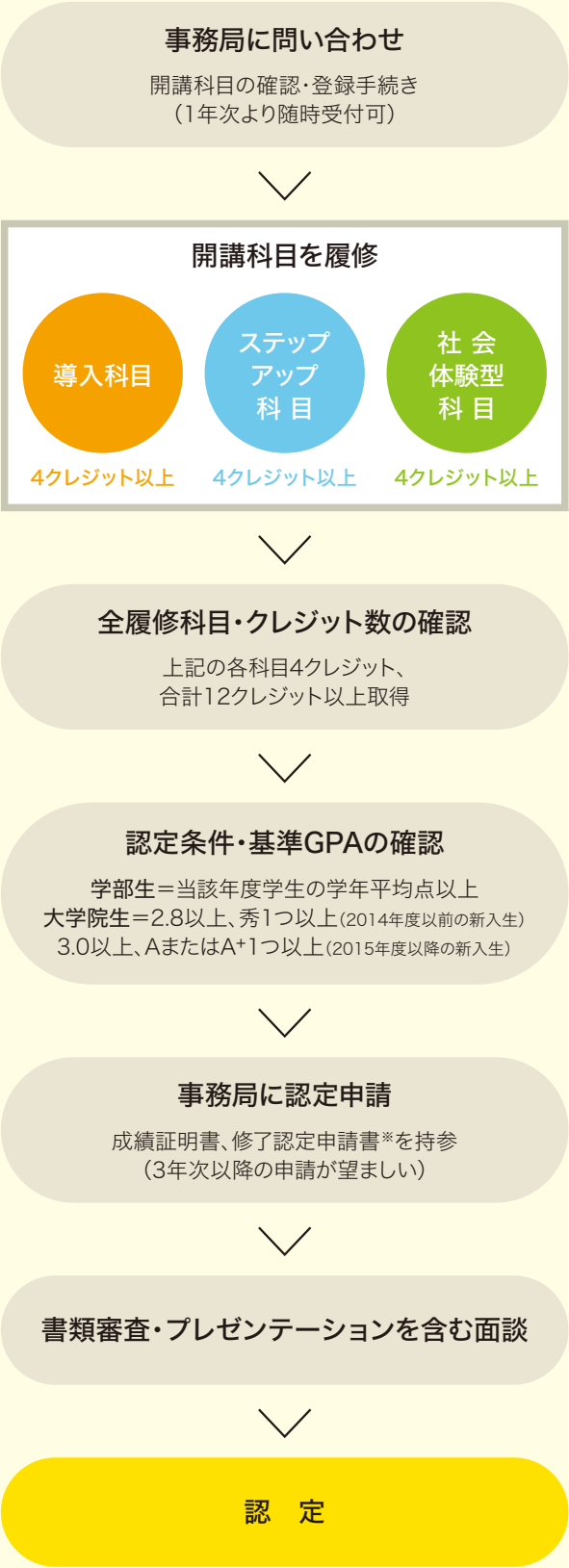
D オフカリキュラム・プログラム

通常の授業枠を超えて博物館が独自に開講するプログラムです。内容は、企画展の展示解説やセミナー運営など様々です。受講生は自分の空き時間を利用してプログラムに参加します。博物館独自のプログラムであるため、関連情報はシラバスには掲載されていません。卒業認定に関わる単位は取得できませんが、マイスターコースのクレジットは取得できます。受講生募集は、博物館ウェブサイトや構内ポスターで前期・後期に各1回行います。今後の予定などはミュージアムマイスター事務局までお問い合わせください。

◎クレジットについて

クレジットはミュージアムマイスター認定コース独自のものです。大学院授業やオフカリキュラムのプロジェクトで認定されるクレジットは、卒業認定に関わる単位とは異なります。また「ミュージアムマイスター認定コース」で必要な科目と「学芸員資格取得」に必要な単位は異なります。

● 認定までの流れ



＊ 修了認定申請書は「ミュージアムマイスター 修了認定申請書」で検索、もしくはミュージアムマイスター事務局までお越しください。

開講科目一覧

●下記の科目情報は令和2年3月1日現在のものです。変更になる場合もありますので、開講学期・曜日・時限についてはシラバスや各掲示板も必ず確認してください。

	科目種別	授業名	開講時期	曜日(時限)	責任教員	クレジット数
導入科目	A 全学教育科目(総合科目)	〔環境と人間〕生物の多様性	1	水曜(5)	柁原 宏	2
	A 全学教育科目(総合科目)	〔環境と人間〕フィールド科学への招待	1	金曜(5)	四ツ倉 典滋	2
	A 全学教育科目(総合科目)	〔環境と人間〕「モノ」+「コト」+「ヒト」＝北大総合博物館	1	木曜(5)	阿部 剛史	2
	A 全学教育科目(総合科目)	〔人間と文化〕アイヌ・先住民研究の現在	2	木曜(5)	山崎 幸治	2
	A 全学教育科目(一般教育演習)	北大エコキャンパス探求	1	金曜(5)	大原 昌宏	2
	B 文学部専門科目	博物館概論	1	水曜(1)	佐々木 亨	2
	B 文学部専門科目	博物館教育論	1	木曜(1)	今村 信隆	2
	B 文学部専門科目	博物館資料論	1	金曜(5)	久井 貴世	2
	B 文学部専門科目	博物館経営論	2	火曜(5)	佐々木 亨	2
	B 文学部専門科目	博物館情報・メディア論	1	水曜(5)	久井 貴世	2
	B 文学部専門科目	博物館展示論	2	金曜(5)	山崎 幸治	2
	B 文学部専門科目	博物館資料保存論	1	火曜(5)	鈴木 幸人	2
ステップアップ科目	A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[1]	1	集中	柴田 英昭	2
	A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[2]	2	集中	柴田 英昭	2
	A 全学教育科目(一般教育演習)	International Archaeological Field School in Rebun Island	1	集中	加藤 博文	2
	A 全学教育科目(主題別科目)	〔芸術と文学〕学芸員から見た美術の世界	1	月曜(5)	吉崎 元章	2
	A 全学教育科目(主題別科目)	〔芸術と文学〕札幌と音楽文化	2	木曜(5)	三浦 洋	2
	A 全学教育科目(主題別科目)	〔芸術と文学〕美術館という現場	1	水曜(2)	北村 清彦	2
	B 水産学部専門科目	水圏生物学	春	火曜(3～4)	河合 俊郎	2
	B 水産学部専門科目	魚類学	春	月曜(1) 水曜(2)	今村 央	2
	B 水産学部専門科目	魚病学	夏	火曜(1) 金曜(3)	笠井 久会	2
	B 水産学部専門科目	水族館学	春	木曜(3～4)	田城 文人	2
	C 文学院専門科目	博物館・文化財研究特殊講義：博物館と市民・地域社会 2020	1	火曜(4)	佐々木 亨	2
	C 大学院共通授業科目	博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学	秋・冬	金曜(5)	山本 順司	2
社会体験型科目	C 理学院専門科目	自然史科学特別講義Ⅳ：博物館工学Ⅲ[1]	1	集中	西野 嘉章	1
	C 理学院専門科目	自然史科学特別講義Ⅳ：博物館工学Ⅲ[2]	1	集中	西野 嘉章	1
	D 総合博物館・オフカリキュラム	パラタクソノミスト養成講座	—	随時＊	—	0.5～1
	C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論（学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価）	1	木曜(4)	湯浅 万紀子	2
	C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価	春・夏	木曜(4)	湯浅 万紀子	2
	C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論（ミュージアムグッズの開発と評価）	2	水曜(4)	湯浅 万紀子	2
	C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価	秋・冬	水曜(4)	湯浅 万紀子	2
	C 理学院専門科目	理科教育課程マネジメント特論	2	金曜(4)	山田 邦雅	2
	D 総合博物館・オフカリキュラム	学生参加プロジェクト（展示制作、展示解説など）	—	随時＊	湯浅 万紀子	1～2
	D 総合博物館・オフカリキュラム	卒論ポスター発表会	—	2月下旬～ 3月上旬	湯浅 万紀子	2

※ 受講者募集の案内は、北大総合博物館ウェブサイトに掲載されます

導入科目

環境・人間・文化に関する基礎知識を学習する科目や導入的なフィールド体験型科目。
博物館の存在意義や活動についての基礎知識を学習する科目。



全学教育科目(総合科目)

- ・[環境と人間] 生物の多様性
- ・[環境と人間] フィールド科学への招待
- ・[環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館
- ・[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在

全学教育科目(一般教育演習)

- ・北大エコキャンパス探求

文学部専門科目

- ・博物館概論
- ・博物館教育論
- ・博物館資料論
- ・博物館経営論
- ・博物館情報・メディア論
- ・博物館展示論
- ・博物館資料保存論

ステップアップ科目

実物資料の扱い方やフィールドワークの方法を学習する科目や講座。
博物館の活動と運営について理解を深める科目。



全学教育科目(一般教育演習)

- ・フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[1]
- ・フィールド体験型プログラム ー人間と環境科学ー[2]
- ・International Archaeological Field School in Rebus Island

全学教育科目(主題別科目)

- ・[芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界
- ・[芸術と文学] 札幌と音楽文化
- ・[芸術と文学] 美術館という現場

水産学部専門科目

- ・水圏生物学
- ・魚類学
- ・魚病学
- ・水族館学

文学院専門科目

- ・博物館・文化財研究特殊講義：博物館と市民・地域社会 2020

大学院共通授業科目

- ・博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学

理学院専門科目

- ・自然史科学特別講義Ⅳ：博物館工学Ⅲ[1]
- ・自然史科学特別講義Ⅳ：博物館工学Ⅲ[2]

総合博物館・オフカリキュラム

- ・パラタクソミスト養成講座

授業紹介

●水族館学

水族館をめぐる学問分野は非常に広範囲にわたっています。水産学、動物学、水質化学などの自然科学と、博物館学、経営学、教育学などの人文科学を総合的に理解することで、水族館とは何かということを学習します。また、水族館で実際に行っている研究活動や日常の仕事について、水族館の職員になるための過程についても紹介します。

本講義は、実際に水族館で活躍している方々が講師を担当します。今年度は鴨川シーワールド国際海洋生物研究所所長の荒井一利氏、大阪海遊館館長の西田清徳氏、沖縄美ら島財団水族館事業部統括の佐藤圭一氏、おたる水族館海獣飼育課係長の三宅教平氏を予定しています。

水族館職員を目指す学生にとっては、水族館の職員と接する機会ができるまたとないチャンスです。



●博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学

「博物館学特別講義Ⅰ」では各専門分野における標本・資料の意味、取り扱い方を理解します。具体的には、標本・資料の採取・収集法、保管法、利活用の技法、データ整理・公開法などについての知識や考え方を習得します。各分野の教員が週替りで講義をするオムニバス形式の授業で、自然史系として1)海藻、2)昆虫、3)昆虫データベース、4)魚類、5)哺乳類・鳥類、6)古生物、7)岩石・鉱物、8)分子系統進化を、文化史系として9)考古学、10)言語学、11)民族学、12)標本史、13)映像・科学技術史を取り扱います。

学芸員資格のアドバンストコースとして位置付けていますが、同時に自然史・文化史を対象とした各研究分野への理解を深め、文理を融合した広い視野を持った教養人としての資質も身につけます。



社会体験型科目

学生が博物館での活動を通じて社会とつながる実践と評価を行う科目やプロジェクト。博物館の展示や場を活用したプロジェクトの企画・運営・評価に参加したり、学生の研究成果を市民に向けて発信して意見交換する。



理学院専門科目

- ・博物館コミュニケーション特論（学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価）
- ・博物館コミュニケーション特論（ミュージアムグッズの開発と評価）
- ・理科教育課程マネジメント特論

大学院共通授業科目

- ・博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価
- ・博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価

総合博物館・オフカリキュラム

- ・学生参加プロジェクト（展示制作、展示解説など）
- ・卒論ポスター発表会

授業紹介

●卒論ポスター発表会

北海道大学を卒業するさまざまな学部4年生が、4年間の研究の成果を大きな1枚のポスターにまとめて発表します。学会での発表とは異なり、市民や他分野の学生にも理解できるようなポスターを制作し、わかりやすく説明することが求められます。中間発表会を複数回行い、教員の指導を受け、発表会に臨みます。



参加者の声

◎自分の研究を分かりやすく人に伝える方法を学びたいと思い、卒論ポスター発表会に参加しました。ポスター制作過程では、自分が一年間取り組んできた研究内容を整理し、分かりやすく表現する手法を学ぶことができました。多くの人に研究成果を伝えるには自分自身の研究と改めて向き合う必要がありました。発表会当日は、研究内容よりも研究の意義について多く聞かれました。来館者との対話を通して、なぜこの研究に取り組んだのか、自分なりの答えを持っていなければならないことを痛感しました。発表会に参加したことで、研究発表の手法を学べただけでなく自分の研究の意味について考えることができ、参加して良かったと思います。

◎自分の研究内容をより多くの人に理解していただきたいと思い、卒論ポスター発表会に参加しました。三回の中間発表会では、博物館の教職員の方々から指導や助言をいただき、同じ発表者同士では相互にフィードバックを行うことで、なんとかポスターを完成させることができました。当日は、来場者に対話していくなかで、自身の研究内容の要点を再認識することができ、良い機会となりました。また、来場者から研究に関連して自分の知らない昔の情報を教えていただくこともあり、非常に参考になりました。

●学生参加プロジェクト

市民に向けた大学博物館関連プロジェクトの企画・制作・運営・評価などに参加します。学生だけではなく、博物館教職員やボランティアと協働することで、コミュニケーション能力やマネジメント能力を養うことを目的としています。授業や普段の学生生活では味わうことのできない、貴重な社会体験の場です。

過去のプロジェクト：企画展展示解説／卒論ポスター発表会の運営 他多数



受講者の声

「卒論ポスター発表会」の運営

◎大学の研究と社会との間をいかに橋渡しできるのかという興味から、卒論ポスター発表会の運営に参加しました。リーフレットやポスターの作成を通して、受け手の立場に立った情報提示の重要性を感じました。様々な研究の世界を垣間見るのは楽しく、視野も広がりました。自分の研究に自信を持ち、熱心に丁寧に説明する先輩方の姿に感動しました。私が取り組む基礎研究や純粋な好奇心から生まれる研究にも意義があることを伝えられるようになりたいです。

「宇宙の4Dシアター」プログラムの運営

◎4Dシアター運営活動のなかで意見が分かれることもありますが、コミュニケーションを尽くして合意点を見つけ出すことが大切です。そのプロセス自体が私にとってはこのプログラムでの一番の学びでした。また、立場や年齢の違う多様な人々の参加によって博物館を盛り立てていくことが重要だと考えることができました。

卒業生 マイスターからの message

新 マイスターからの message

太田 晶

むかわ町恐竜ワールド戦略室
2015年度 理学院修士1年次に
マイスターに認定

現在の活動状況と、いま考えるマイスターコースの意義

私は2015年に修士課程を休学し、北海道のむかわ町で地域おこし協力隊員として2年間勤務しました。この頃は「むかわ竜」をはじめとする町内の化石・古生物に関する普及・広報活動を行っていました。マイスターコースで学んだことを活かしやすい業務にあっており、特に展示解説や卒論ポスター発表で培った相手に「わかりやすく伝える」技術や、対面する際の立ち居振る舞いが仕事のベースとなっていました。復学した後、2019年に修士課程を卒業し、いまは同じ町の役場職員として働いています。研究職でも学芸職でもない一般職ですが、「わかりやすく伝える」ための技術は仕事上での報告・連絡や原稿作りに役立っています。今の職場では年齢が一回りも二回りも離れた人と一緒に仕事をしていますし、異なる業種の人と仕事をする機会もあります。これは当然のことなのですが、いま考えてみると、展示制作などの社会体験型科目で経験する、「年齢も立場も異なる受講者同士が協力して物事を前に進めていく」という環境は、実際の職場の状況とよく似ていたように思います。在学中は学芸員課程を履修していたこともあり、マイスターコースは単に博物館での活動を体験できる場と捉えていました。しかし改めて振り返ると、マイスターコースは普段の講義や学生生活ではできない体験を通して、実社会で必要とされる能力に気づき、培うことができる場でもあったのだと感じます。

博物館での活動の思い出

3階の古生物標本の部屋に、北海道のアンモナイトを展示したケースがあります。実は2012年度のマイスターコースのプログラムで制作されたもので、当時学部2年生の私も参加していました。展示のデザインやアイデア出し、受講者同士の意見のすり合わせには苦労した思い出があります。展示公開日の直前まで作業しましたが、7年近く経っても自分が携わった展示が残っているというのは、とても嬉しく感慨深いものがあります。

在校生へのメッセージ

マイスターコースではカリキュラムを通して博物館に携わる様々な物事や人と関わります。「将来は博物館で働きたい」という学生には、自分の進路について実践を通じて考えを広げ、また深める絶好の機会となります。そうでない学生にとっても、マイスターコースで鍛えられる能力はどんな組織・会社でも求められるものであり、近い将来に必ず役立ちます。ハードな科目もありますが、目的意識を持って取り組みれば受講者自身の成長につながります。大学にいながら博物館を舞台にして活躍することができる貴重な機会を、ぜひ活用してください。

押野 祐大

2018年度
生命科学院修士2年次に
マイスターに認定

山本 茉奈

2018年度
理学院修士2年次に
マイスターに認定

学部4年次に学芸員資格を取得し、さらに実践的な経験が積みたいと思っていたところ、ミュージアムマイスターコースを知りました。偶然にも対象科目を既にいくつか受講していたことも後押しとなり、マイスター認定を修士課程の一つの目標にしました。受講した授業の中で特に印象に残っているのは「ミュージアムグッズの開発と評価」です。自分たちが商品企画からデザイン、解説シートの執筆、発注業者の選定まで取り組んだ3種類の巾着「まなびのむすび」を商品化できたことは、苦労した分大変嬉しく達成感がありました。また、修士課程に進学してから自宅と研究室を往復するような生活を送っていた私にとって、マイスターコースで出会う人々との交流はとても刺激的で、自分自身の視野を広げることができたと思います。北大生の皆さんには、キャンパスに大学博物館があるこの素晴らしい環境をぜひ利用してもらいたいと思います。私もマイスター認定を受けた者として、今後も自分のできることを模索していきたいと思います。

近藤 喜十郎

2018年度
文学研究科研究生在籍時に
マイスターに認定

遠藤 優

2018年度
理学院修士1年次に
マイスターに認定

学芸員養成課程で博物館について学ぶにつれ、博物館を取り巻く環境、社会との繋がりを学びたく、ミュージアムマイスターコースの受講を決めました。学術標本の保存方法や活用方法を学ぶ、ミュージアムグッズの企画・開発を行うなど魅力的な授業・プロジェクトが多くありましたが、その中でも特に印象に残ったのが卒論ポスター発表会です。卒業研究はまとまっているので大丈夫だと思っていましたが、研究者と市民の方では持っている前提知識が異なるため、どうしたら相手に伝わるのかを常に意識させられました。博物館の重要な役割の一つである「学術的知見を社会にわかりやすく正確に発信すること」を、実践を通して学べたと感じています。マイスター認定後も、企画展のセミナーの司会を任せていただくなど博物館で活動しています。博物館への学びを深めたい、学術的知見を社会に発信する方法を学びたい方にはぴったりのコースです。少しでも興味のある方はぜひ受講してみてください。

